

男性 0 人

女性 2 人

その他 0 人

女教師……まだ若い。ほんわかした感じ。

浩子……女生徒。真面目な感じ。

-
- 1 女教師「で、浩子さん。どうして家出なんかしたの？」
- 2 浩子「先生のごことは大好きですが、言いたくありません」
- 3 女教師「あーん。いじわるう。浩子さんが教えてくれないと、先生も叱られちゃうのよ？
ねー、おねがいー。ダークモカチップクリームフラペチーノおごるからあ」
- 4 浩子「ごめんなさい。どうしても言えません」
- 5 女教師「この数日、どこに泊まっていたのかぐらい、教えてくれてもいいわよね？」
- 6 浩子「ごめんなさい。それも言えません」
- 7 女教師「ふーん。でも先生にはわかっているのよ。なぜなら、あたしはベテラン教師だから。浩子さん、恋人と一緒にだったでしょう！」

8. 浩子「え、え？ ……あ、はい。そうなんです。あたし、恋人と一緒にいたのです」
9. 女教師「まあ。不純異性交遊というやつなのね。」両親が聞いたら、とても悲しむわよ」
10. 浩子「いいんです！ あんな人たちなんか関係ありません！」
11. 女教師「それもそうよね！」
12. 浩子「え、え、え？」
13. 女教師「浩子さんだって、年頃の女の子だもの。愛する彼氏と一緒にいたい、その気持ちわかるわあ。親なんて関係ないわよね。恋って、そういうものだから！」
14. 浩子「あ、あの。教師として、それでいいのでしょうか？」
15. 女教師「いいのよ。あたしは先生である前に女、いや人間なんだから。誰かを愛する気持ち、それは誰にも止めることができないの。ええ、もちろん、親なんかには止められないわ！」
16. 浩子「は、はあ」
17. 女教師「そ、それでね。あの。聞きにくいんだけど。そ、その。じゃあ彼氏と……えっちしたのね？」
18. 浩子「え？ それは、その……」
19. 女教師「(真面目な声で) 浩子さん、これは大事なことなの。正直に、答えなさい」
20. 浩子「はい、しました。あたし、彼氏と、えっちしました」
21. 女教師「あーん。うらやましいわあ！」
22. 浩子「え」
23. 女教師「先生、じつはまだ処女なのよう。浩子さん、うらやましいわあ。ねえねえ、やっぱり痛かった？ 先生に隠さないで教えなさいよお」

24. 浩子「先生、話が脱線していると思います。あたしが家出した理由を、知りたいのではなかったのですか？」
25. 女教師「そんなこと、先生にはもうどうでもいいの。ねえ、痛かった？ どれくらい？ タンスの角に、足の小指をぶつけた時よりも痛い？」
26. 浩子「……それよりも、はるかに痛かったです」
27. 女教師「うわあ！ それは痛いわねえ。でね、その……男性のアレってどれくらいの大きさなの？」
28. 浩子「先生、あたしがなぜ家出したのか聞いてください」
29. 女教師「だから興味が無いの。ねえ、教えてよお。男性のアレって、大きいんでしょ？ どれくらいの大きさなのよお」
30. 浩子「……これくらいです」
31. 女教師「ええっ、嘘でしょ！ いくらなんでも、そんなに大きいはずがないわ」
32. 浩子「……すみません、これくらいでした」
33. 女教師「え？ 今度はそんなに小さいの？ ははーん。浩子さん、先生に嘘をついてるでしょう。ひよつとしたら、彼氏とえっちしたというのは嘘なんじゃないかしら」
34. 浩子「そんなことはありません！ あ、あの、男性のアレは大きくなったり小さくなったりするじゃないですか。先生だって、それくらいのこと知っていますでしょう？」
35. 女教師「うわあ、本当に経験した人の言うことは、やっぱり違うわあ。でね、最後まで痛かった？ 途中から気持ち良くなった？ 先生、心配なよう」
36. 浩子「先生。お願いですから、どうして家出したのか聞いて欲しいです」
37. 女教師「そんな話はどうでもいいってば。ねえ、ねえ。先生はこれから経験するのよ？ 教えてくれてたっついじゃない。最後まで痛かった？ それとも、途中から気持ち良くなっただ？」

-
38. 浩子「……途中から気持ち良くなりました」
39. 女教師「そうなの！ 身体の仕組みって不思議なものねえ」
40. 浩子「先生。あたし何でも話します。お願いですから、どうしても家出したのか聞いてください。その話がしたいです」
41. 女教師「いいえ。もういいわ」
42. 浩子「いいんですか!？」
43. 女教師「親御さんには今の話、そのまま伝えていいのよね？」
44. 浩子「……はい。構いません」
45. 女教師「ご両親は、さぞお怒りになるんじゃないかしら」
46. 浩子「いいんです！ あんな人たちがどう思おうと、あたしには関係ありません！」
47. 女教師「浩子さん。お母様、心配のあまり倒れられたそうよ」
48. 浩子「ええっ？」
49. 女教師「それにお父様は、ボロボロ泣いていらつしゃった。『俺が悪かった。浩子ごめん。お父さんを許してくれ』って」
50. 浩子「あの冷たい、あたしの成績にしか興味がない人が……」
51. 女教師「何があつたか先生は知らないけど、きちんと話し合うべきだと思うな。家出なんて幼稚なことをしても、問題は解決しないわよ？」
52. 浩子「先生……」
53. 女教師「彼氏とえつちしたとか、嘘なんでしょう。余計に両親を心配させてみようなんて、そういうのも良くない考えよ」

-
54. 浩子「……ばれてたんですか」
55. 女教師「これでも先生だからね。いえ、女の先輩だから、かしら。これでも先生、男性との経験はあるのよ？ この数日は、どこに泊まっていたの」
56. 浩子「マンガ喫茶を、転々としていました」
57. 女教師「えっちなことは、もちろんなしね？」
58. 浩子「はい、ありません。教えて貰ってもいいですか？ あたしがえっちなことをしてないって、いつからわかってたんですか？」
59. 女教師「この部屋に入ってきたときから、先生には、わかっていたわよ」
60. 浩子「先生には、かなわないな……」
61. 女教師「だって歩き方が普通なんですもの！ 初めてのえっちをした後は、足の間に何かが挟まってる気がして、ガニマタになるのよ！ そうよ、そういうものなの！ 先生は大人で経験済みだから、何でも知っているのよ！」
62. 浩子「先生……やっぱり処女なんでしょう？」
63. 女教師「いやーん。どうしてばれちゃったのお？」

おわり